

看護部通信

2006.7.1 発行 第11号

プリセプターシップの体制と実際

新生会看護部では、かねてより経験を積んだ看護師が新人教育に当たることが多く、新人は経験を積んだ既卒看護師という特徴がありました。これらを踏まえて、2004年度にはプリセプターシップの教育体制の整備をし、2005年度には各部署で運用が始まり、第一回目のプリセプターシップ研修も終わることができました。プリセプターシップとは、一人のプリセプター（指導者）が一人のプリセプティ（新人）にマンツーマンでともに実務につき、臨床の教育を担当するという一教育システムであり、プリセプター・プリセプティともに成長できるというものです。当看護部では、新人研修が円滑に進み、プリセプター・プリセプティのストレスが少なくなるようにアソシエート（プリセプターの相談役）の役割を設けています。その実際の声を紹介します。【現任教育委員長 牛崎ルミ子・(旧)教育委員長 千葉志津子】

実際の声

プリセプター (指導者)

- ✧学ぶ姿勢でいるプリセプターは、プリセプティと共に育っていきと感じた
(金山クリニック鍋田八枝)
- ✧指導する前の知識の再確認を含め、自分の学びになった
(金山クリニック 小川ひとみ)
- ✧プリセプティの初々しい一生懸命な姿をみて初心にかえれた
(東海・東海知多クリニック 中谷洋子)
- ✧プリセプティから学んだことを大切にしたい
(鳴海クリニック 木下貴世)
- ✧新人と二人三脚で勉強し、一緒に育っていきたい
(十全クリニック 村松めぐみ)
- ✧自分の知識や技術を再確認でき、指導することで自分の学びになった。
(血液浄化センター 塚本小百里)
- ✧スタッフ皆がとても熱心に指導に協力してくれたので、とても心強かった。
(血液浄化センター 川内リカ)
- ✧新人と他のスタッフとの連携がプリセプターとして重要なことだと学んだ
(病棟 高橋美恵)

プリセプティ (新人)

- ♪質問しやすい環境を作ってもらえたので、問題点をやり過ごさず、学べた事が良かった。
(金山クリニック 岡本夏実)
- ♪「出来るようになったね」と声をかけられ、とても励みになった。
(東海・東海知多クリニック 菊池裕子)
- ♪一から噛み砕いて教えて頂き、質問しやすい環境で学べ幸せです。
(鳴海クリニック 馬場悦子)
- ♪一から丁寧に教えてもらい、不安や困った事を相談し易かったので良かったです。
(十全クリニック 安原さつき)
- ♪解らないことばかりで不安だが、プリセプターがいてくれて心強い。
(血液浄化センター 今井理恵)
- ♪透析が初めての私に対して、丁寧に解り易く指導してくれてありがたい。
(血液浄化センター 小塚直子)
- ♪解らない事や不安・疑問に思うことを振り返りノート記入後、プリセプターがアドバイスしてくれるので感謝しています。
(病棟 坂野美幸)
- ♪振り返りノートへコメントを書いて頂き、とても嬉しく思う。(病棟 木山歩美)

アソシエート (プリセプターの相談役)

- ☆相談役は難しく、精神面のフォローの難しさを実感しながら、自己成長できた。
(金山クリニック 伊井たか子)
- ☆一人で抱え込んで育てようとしなくてもいいよ、一緒にやりましょう。
(東海・東海知多クリニック 片岡春美)
- ☆研修しやすい環境作りをプリセプターと共に考えていく大切さを学んだ。
(鳴海クリニック 早川幸子)
- ☆プリセプターの相談役になり、プリセプティが育っていける環境を作るようにしている。
(十全クリニック 加藤直美)
- ☆プリセプティとプリセプターのこれまでの知識・技術を活かしていく指導が必要で信頼関係を築くことが大切。
(血液浄化センター 片村幸代)

院内感染予防の基本は手洗い

院内感染予防策の中でも、最も基本的な対策である『手洗い』についてお話したいと思います。自分たちの手を介して感染が広がって行きます。手洗いのための適切な消毒薬や設備が設置されていても、必要な場面で手洗いが行われていなければ感染対策がなされたことになりません。例えば、頻繁に手洗いが行われているとしても処置前の手洗いがあまり行われていない場合には、適切な感染対策がなされたことになりません。そこで、CDC（米国疾病管理センター）が提唱する『医療現場における手指衛生』を紹介しますので、今行っている手洗いを見直してみてください。

【病棟 師長 洲崎英子】

☆手洗いと手指消毒☆

- 速乾性手指消毒薬は水と液体石鹸を用いた手洗いと同等以上の効果がある。速乾性手指消毒薬は3ml以上必要！
- 手指が目に見えて汚れている場合、血液・その他の体液で汚染された場合は水と液体石鹸で汚染を物理的に除去すること。

☆手洗い(手指消毒)が必要な場面☆

- 患者に直接接触する前
- 中心静脈カテーテル挿入時に滅菌手袋を着用する前
- 導尿カテーテル、末梢静脈カテーテルなど外科的処置を要しない侵襲的医療器具を挿入する前
- 患者の健常皮膚に接触した後
- 体液、排泄物、粘膜、皮膚創部、創傷被覆材に接触後
- 同一患者の汚染部位から清潔部位に移る場合
- 患者のすぐ側にある物品（医療器具を含む）と接触した場合
- 手袋を外した後

☆手洗いのテクニック☆

①手掌を合わせてよく洗う



②手掌で手の甲を左右洗う



③指先、爪の間を入念に左右洗う



④指の間を入念に洗う



⑤親指と手掌のねじり洗いを左右する



⑥手首も忘れずに洗う



外来の取り組み



5月腎教室風景



外来と手術室が統合し3年が経過しました。手術室看護では外来との兼任Nsになり、シャント手術の手順PTA手順、中材業務の手順の改定が急務でした。昨年は患者様が安全・安心して手術を受けられるよう誤認防止手順の見直し、手術看護記録の見直しを実施し、手術中の看護記録を書けるようにしました。今年度はシャント手術管理について情報発信を実施する計画を立てています。

外来では今年度は腎不全保存期の対象を広げCr2以上の人を対象に、腎教室、教育指導の見直しを図っています。5月には第1回の腎教室も開催し、「わかりやすくて良かった」「あの薬がそんなふうに腎臓に効くとは考えていなかった」など患者様からの声をいただき、現状にあったよりよい看護を目指していきたいと思っています。【外来 師長 佐々木しのぶ】

ストレスマネジメント



看護部通信では、スタッフのストレス対処について何度か掲載してきました。今回は2006年1月に新生会第一病院及び関連サテライト全6施設の看護管理者にインタビューした『スタッフのストレスの処理やストレス解消・適応の支援』について報告します。下記の表のように、看護管理者は日頃スタッフのストレスマネジメントに向けて様々に支援しています。個々のスタッフは自分のストレスに気づき、対処の方法を身につけ、職場では同僚・先輩・管理者に相談・支援を受けましょう。【看護部長 岡山ミサ子】

こんな風にスタッフのストレスを支援しています！！

(看護管理者24名 2006年1月)

①ストレスの気づき	<ul style="list-style-type: none"> ★なるべく声をかける（手伝えることはないか聞く・スタッフの表情をみて声をかける・変化があったら声をかける・個々に合わせて声をかける） ★他のスタッフから情報を得て声をかける ★スタッフの何気ない会話から情報を得る
②相談しやすい 雰囲気作り	<ul style="list-style-type: none"> ★部屋を閉めないでいつでも入れる状況にしている ★忙しそうにしない ★気軽に自分のことも話すようにしている ★飲み会に誘う（本音が出る） ★愚痴が言える場を作る ★主任、主査に相談できるようにしてる ★一人一人が意見を言える環境を作る
③スタッフの話や聞くときの姿勢、態度	<ul style="list-style-type: none"> ★否定しない ★うなずく ★視線を合わせる ★話のじゃまをしない ★感情を聞いていく ★肯定していく ★フィードバックしていく ★じっくり話を聞ける時間をつくる
④アドバイス・対応方法	<ul style="list-style-type: none"> ★自分の体験談を話す ★自分の失敗談を話す ★解決できる事か、気持ちの持ち方かを見極める ★何か支援できるところがあるか聞く ★支援することがあれば早めに行動する ★スタッフ間でディスカッションし問題を共有する
⑤患者との問題へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ★難しい患者（穿刺困難、怒鳴る、怒るなど）への関わりは一時的に回避させる ★患者に直接介入し事実を確認して本人に返していく★本人の感情を聞いていく ★患者の全体像を見ていく ★他のスタッフの患者の対応を見てもらい、アドバイスしたり、自分のかかわりを振り返ってもらう ★ケースカンファレンスを聞き本人を参加させる ★患者理解についての文献提示、事例検討会、学習会を開く

いまいまナース

外来で昨年、役職退任後、資格を生かしてさらに輝きを増している青木恵子さんを紹介します。

インタビューー 外来師長 佐々木しのぶ

◎ アロマテラピストとして活躍

青木さんは長年の勉強が実り、アロマテラピストの認定試験に合格。その資格を生かし看護研究に取り組んでいます。東海談話会では『末梢循環障害に伴う苦痛の改善にアロマテラピーが奏功した一症例』で最優秀賞も受賞されました。

◎ ボランティアとして活躍

青木さんは病棟の入院患者様のターミナルケア、主に緩和ケアをボランティアで実施しています。患者様には大変喜ばれて、待ち望んでいらしたと聞いています。その後のアンケート調査を実施し、主治医、病棟Nsからもプラスの意見をいただいています。

◎ 看護師への浸透

『私が病院に勤めている間に、アロマについて知ってもらいたい、残していきたい』『患者だけではなく、看護師のストレス緩和にも役立ててほしい』と話され、活動しています。今年度はSNFからの講師依頼もあり、張り切っています。

『役職退任で精神的けじめがついて、残りの時間はアロマを活かした看護がしたい』と話されたように、一気に花開いたかのような情熱と熱意に私たちも刺激されています。



(編集：岡山・牛崎・佐々木・野本)